

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	東京栄養食糧専門学校
設置者名	学校法人 食糧学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
栄養専門課程	栄養士科 (2年制)	夜・通信	1,320 時間	80 時間×2＝ 160 時間	
	管理栄養士科 (4年制) 医療・福祉栄養系	夜・通信	3,180 時間	80 時間×4＝ 320 時間	
	管理栄養士科 (4年制) 健康・食育栄養系	夜・通信	3,165 時間	80 時間×4＝ 320 時間	
製菓専門課程	健康スイーツ研究科 (1年制)	夜・通信		80 時間×1＝ 80 時間	
(備考) 製菓専門課程 健康スイーツ研究科 今年度は開講していない。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校窓口にて「授業概要（シラバス）」「実務経験のある教員等による授業科目一覧表」を常時閲覧可能な状況にする。
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京栄養食糧専門学校
設置者名	学校法人 食糧学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.dietitian.ac.jp/schoolguide/information/> で公表している。

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学校法人 食糧学院 東京調理製菓専門学校 元校長	2023. 4. 1 ～ 2025. 3. 31	教育内容に対する 専門的な知見
非常勤	藤森法律弁護士事務所 弁護士	2023. 4. 1 ～ 2025. 3. 31	学院の法務担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京栄養食糧専門学校
設置者名	学校法人 食糧学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 各授業科目については、学校の教育方針と教育目標に基づき、学院年度方針を踏まえ、各年度ごとに行われる学内運営委員による会議において、各々の授業科目の設定、授業の目的・内容、授業計画等についての検討・検証を行い、また定期的に外部委員を交えた「教育課程編成委員会」および「学校関係者評価委員会」での提言・助言を考慮に入れ、各授業担当教員により、学内統一様式で作成されるシラバス作成を行っている。このシラバスは、各授業科目に対し、対象となる「学科・コース、単位数、年次、時間数、期間、授業の目的・内容、授業計画、成績評価方法、教科書および参考書に関する事項は、全科目共通で記載することが必須となっている。	
【時期について】 翌年度の講義予定（授業計画）は各授業担当教員が作成し、教務課担当者に1月中旬に提出され、それをまとめたものを学内運営委員による会議において承認がなされたものを理事会の場で翌年度事業計画が承認される（3月上旬）ことで正式に決定となる。学生に対しては、4月初旬にコミュニケーションツール（Microsoft Teams）内で公開を行う。	
授業計画書の公表方法	一般希望者向けの公表方法として、「授業概要」（シラバス）の閲覧をコミュニケーションツール（Microsoft Teams）で公表している。また、学校窓口にて「授業概要（シラバス）」の印刷物を常時閲覧可能な状況とし公表もしている。

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

学則の細目において、学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各学科定める授業科目の試験（レポート、ノート提出を含む）により成績評価を行っている。

学則 第5章 第17条 第1項～第4項 および 第18条 第1項～第5項において、「成績の評価、課程修了の認定及び卒業」として記載されている。

〔参考〕

・第5章 第17条 第2項 において、「成績の評価は、各科目とも100点をもって満点とし、60点以上を合格とする」としている。

さらに『学生便覧「教育課程・教務関係」Ⅳ授業欠席・遅刻・早退の取扱いについて』において、授業欠席は、1科目につき3回までを限度とする。遅刻・早退3回を1回欠席とする。とし、これ以上欠席のある生徒については成績評価の対象としない。

・第5章 第18条 第1項 において、「本校所定の課程を試験等による評価のうえ修了したと認める者には、卒業証書を授与する」としている。

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 学業成績は、『学生便覧「教育課程・教務関係」V. 成績(試験)評価に関する規定について』において、「成績評価・評点と評定・試験の種類・受験資格・試験の実施・試験成績の発表・欠点科目(未履修科目)・卒業認定・留年、再履修および転学」について記載されている。 〔参考〕 ・成績の評価は試験成績を中心とし、日常の成績を勘案して決める ・成績は100点満点の評点で表し、最終的には次の基準で評定する。 100～90点：S、89～80点：A、79～70点：B、69～60点：C、59点以下：Dとし、C以上を合格とする 成績評価方法については、学則細目および学生便覧(一部抜粋)をコミュニケーションツール(Microsoft Teams)で公表するほか、入学時オリエンテーションで入学生徒等に通知している。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	一般希望者向けの公表方法として、「学生便覧」の閲覧をコミュニケーションツール(Microsoft Teams)で公表している。また、学校窓口にて「学生便覧」の印刷物を常時閲覧可能な状況とし公表もしている。

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 東京栄養食糧専門学校は昭和 14 年 (1939 年) に国策として、国民の体位向上・栄養改善・健康増進・食の改善研究等食の専門指導者を育成する目的で創立された学校で、平成 31 年 (2019 年) 4 月に創立 80 周年を迎えた日本の栄養士養成の草分け的存在の学校。『食と栄養と健康のスペシャリストの育成』を教育の基本方針に「創造と科学と実践の教育」を強化し、現場に即応できる実践能力を有する職業人の育成、チームワークとボランティア精神の育成を目指し、社会的要請に応えられる栄養士・管理栄養士を養成することを目的としている。 卒業要件については、学則に定めた各科所定の全教科科目の卒業単位が全て履修された者に、卒業認定会議の承認を得て卒業が認められる。詳細についてはディプロマポリシーをはじめ、学則細目、学生生活の手引きを学生便覧等に記載している。また入学対象者に向けて、オープンキャンパス、授業見学会、個別相談等においてもアドミッションポリシー、ディプロマポリシーを公表している。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	一般希望者向けの公表方法として、「学生便覧」の閲覧をコミュニケーションツール (Microsoft Teams) で公表している。また、学校窓口にて「授業概要」の印刷物を常時閲覧可能な状況とし公表もしている。

様式第 2 号の 4－②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第 2 号の 4－①を用いること。

学校名	東京栄養食糧専門学校
設置者名	学校法人 佐藤 浩

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.dietitian.ac.jp/schoolguide/information/
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
衛生		栄養専門課程	栄養士科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,725 時間／77 単位 単位時間／単位	840 時間 /56 単位	90 時間 /3 単位	540 時間 /12 単位	225 時間 /5 単位	30 時間 /1 単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
400 人		225 人	0 人	33 人	37 人	85 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. 参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. 参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. 参照

学修支援等
(概要) 講義等の授業において、小テストや中間テストを行い習熟状況の確認している。その中で、学習が遅れている学生や希望者に対して、試験前に補講を行い学力の底上げをしている。 また、調理実習においては放課後実習室を開放し、希望する学生はフリートレーニングを行っている。実習教員が付くことで、基本技術習得の支援を行っている。 さらに、栄養士実力認定試験対策を行うことで、各授業の復習に加え栄養士としての実力の向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
111 人 (100%)	11 人 (9.9%)	90 人 (81.1%)	10 人 (9.0%)
(主な就職、業界等) ・給食受託会社 ・子供福祉施設 ・美容企業			
(就職指導内容) ・就職相談 ・履歴書、エントリーシート添削 ・面接練習			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・栄養士免許			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
225 人	4 人	1.7%
(中途退学の主な理由) ・経済的な理由、進路変更、健康上の理由 など		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・担任による定期的な個人面談及びその後のフォローアップ など		

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
衛生		栄養専門課程		管理栄養士科 医療・福祉コース				○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類						
			講義	演習	実習	実験	実技		
4 年	昼	3, 555 時間／162 単位 単位時間／単位	1845 時間 /123 単位	180 時間 /6 単位	1140 時間 /24 単位	360 時間 /8 単位	30 時間 /1 単位		
			単位時間／単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
320 人		264 人	0 人	33 人	37 人	85 人			

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. 参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. 参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. 参照
学修支援等
（概要） 講義等の授業において、小テストや中間テストを行い習熟状況の確認している。その中で、学習が遅れている学生や希望者に対して、試験前に補講を行い学力の底上げをしている。 また、調理実習においては放課後実習室を開放し、希望する学生はフリートレーニングを行っている。実習教員が付くことで、基本技術習得の支援を行っている。 さらに、栄養士実力認定試験対策を行うことで、各授業の復習に加え栄養士としての実力の向上を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
76 人 (100%)	1 人 (1.3%)	72 人 (94.7%)	3 人 (4.0%)
（主な就職、業界等） ・病院 ・給食受託会社 ・高齢者福祉施設 ・子ども福祉施設			

(就職指導内容) ・就職相談 ・履歴書、エントリーシート添削 ・面接練習
(主な学修成果(資格・検定等)) ・栄養士免許 ・管理栄養士国家試験受験資格
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
264 人	1 人	0.37%
(中途退学の主な理由) ・経済的な理由、進路変更、健康上の理由 など		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・担任による定期的な個人面談及びその後のフォローアップ など		

注：「年度当初在学者数」及び「年度の途中における退学者の数」、「中退率」について、管理栄養士科医療・福祉栄養系及び管理栄養士科健康・食育栄養系の人数の合算となっております。

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
衛生		栄養専門課程		管理栄養士科 健康・食育コース				○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類						
			講義	演習	実習	実験	実技		
4 年	昼	3, 540 時間／162 単位 単位時間／単位	1845 時間 /123 単位	210 時間 /7 単位	1095 時間 /23 単位	360 時間 /8 単位	30 時間 /1 単位		
			単位時間／単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数		
320 人		264 人	0 人	33 人	37 人		85 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. 参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. 参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. 参照
学修支援等
（概要） 講義等の授業において、小テストや中間テストを行い習熟状況の確認している。その中で、学習が遅れている学生や希望者に対して、試験前に補講を行い学力の底上げをしている。 また、調理実習においては放課後実習室を開放し、希望する学生はフリートレーニングを行っている。実習教員が付くことで、基本技術習得の支援を行っている。 さらに、栄養士実力認定試験対策を行うことで、各授業の復習に加え栄養士としての実力の向上を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
76 人 (100%)	1 人 (1.3%)	72 人 (94.7%)	3 人 (4.0%)
（主な就職、業界等） ・病院 ・給食受託会社 ・高齢者福祉施設 ・子ども福祉施設			

(就職指導内容) ・就職相談 ・履歴書、エントリーシート添削 ・面接練習
(主な学修成果(資格・検定等)) ・栄養士免許 ・管理栄養士国家試験受験資格
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
264 人	1 人	0.37%
(中途退学の主な理由) ・経済的な理由、進路変更、健康上の理由 など		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・担任による定期的な個人面談及びその後のフォローアップ など		

注：「年度当初在学者数」及び「年度の途中における退学者の数」、「中退率」について、管理栄養士科医療・福祉栄養系及び管理栄養士科健康・食育栄養系の人数の合算となっております。

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
衛生		製菓専門課程	健康スイーツ研究科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	960 時間／31 単位 単位時間／単位	210 時間 /14 単位	30 時間 /1 単位	630 時間 /14 単位	90 時間 /2 単位	時間/ 単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		人	人	人	人	人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. 参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. 参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. 参照
学修支援等
（概要） 講義等の授業において、小テストや中間テストを行い習熟状況の確認している。その中で、学習が遅れている学生や希望者に対して、試験前に補講を行い学力の底上げをしている。 また、調理実習においては放課後実習室を開放し、希望する学生はフリートレーニングを行っている。実習教員が付くことで、基本技術習得の支援を行っている。 さらに、栄養士実力認定試験対策を行うことで、各授業の復習に加え栄養士としての実力の向上を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (100%)	0 人 (%)	0 人 (%)	0 人 (%)
（主な就職、業界等）			

(就職指導内容)
(主な学修成果（資格・検定等）)
(備考)（任意記載事項） 対象者なし

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
栄養士科	150,000 円	700,000 円	690,000 円	実験実習費：280,000 円 施設設備費：270,000 円 教 材 費：100,000 円
管理栄養士科	150,000 円	730,000 円	710,000 円	実験実習費：240,000 円 施設設備費：270,000 円 教 材 費：100,000 円
健康スイーツ研究科	150,000 円	500,000 円	700,000 円	実験実習費：400,000 円 施設設備費：200,000 円 教 材 費：100,000 円
修学支援 (任意記載事項)				
各種奨学金制度、教育ローン制度をはじめ、本校独自の制度として「教育後援会奨学金制度」「資格取得者支援制度」「キャリア支援制度」「自立通学社員制度」「紹介者推薦制度」などにより経済的側面からの支援充実を図っている。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価について、学校 HP で公開している http://www.dietitian.ac.jp/schoolguide/information/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
学校関係者として、関係企業、卒業生などを含む学校関係者評価委員会を組織し、それぞれの知見を活かした教育内容・学校運営等について評価を行っている。 評価内容は理事会、学校運営委員会などに報告され、次年度以降の改善に取り組んでいる。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
一般社団法人 FLA ネットワーク協会 事務局	2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日	業界団体
株式会社 宮本薬局 社長室	2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日	企業
慶応義塾大学病院 食養管理課	2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日	学識経験者
株式会社 シダックス メディカル事業本部	2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日	企業
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価について、学校 HP で公開している http://www.dietitian.ac.jp/schoolguide/information/		

第三者による学校評価（任意記載事項）

特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構による「平成 27 年度 私立専門学校等第三者評価 評価報告書」を学校 HP で公開している。
--

http://www.dietitian.ac.jp/schoolguide/information/

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

学校ホームページ： http://www.dietitian.ac.jp/

刊行物：「学校案内」「募集要項」

入手方法：電話による問い合わせ（電話：03-3424-9113）又は学校 HP の資料請求 お申込みフォーム

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H113311200042
学校名	東京栄養食糧専門学校
設置者名	学校法人 食糧学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		75人	74人	77人
内 訳	第Ⅰ区分	46人	43人	
	第Ⅱ区分	15人	22人	
	第Ⅲ区分	12人	－	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				77人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。